

資料 2 第 1 回検討会指摘と対応

資料1 第1回検討会概要報告のとおり、議論の参考とした各種シーズや研究の展開について御意見を頂いた。これを受けて以下のとおり、事務局側の対応を整理した。

水産の研究課題の取扱等について、具体的な記述(案)については別途御説明するが、本検討会での御意見も踏まえ、改めて事務局において研究事業の公募方針を検討することとしたい。

なお、研究の推進方法など、全般的な記述や注記、付記等については、農業・農村型の研究課題と共通とする場合があるため、漁業・漁村型の検討会において御指摘がない事項についても追加付記する場合があるので、ご了承いただきたい。

(今後の流れ)

- 1月30日 技術展開方針検討会(漁業・漁村実証研究:2回目) ← 本日
- 2月9日 技術展開方針検討会(農業・農村実証研究:2回目)

(頂いたご意見に基づき、事務局で公募要領の記述について最終調整)

- 2月中旬 公募開始(応募要領の公示)
- 3月上旬 提案書の受付×切
- 3月中旬 審査委員会

(御指摘と対応)

① 持続的な漁業・養殖業生産を可能とする効率化システムの研究開発

御指摘		事務局対応方針
沖合・沿岸海洋環境統合システムの開発について		
(1-1) 沖合に向けての観測網はどのくらいの範囲で、観測頻度はどの程度必要か。	大竹委員	(個別技術の提案の有無に関わらず) 公募要領において、文科省事業など他事業との研究計画との重複の排除と、研究推進において文科省など他事業等との連携を図ることを義務付けるような記述を検討。
(1-2) 文科省の事業(東北マリンサイエンス拠点事業)とこの事業の関係はどんなものか。	山内委員	
MAD-SSを用いた岩手三陸の養殖従事者向けセンサ計測システム		

<p>(1-3) 沖合・沿岸海洋環境統合システムの開発の提案と組み合わせは考えられないのか。</p>	<p>關委員</p>	<p>(個別技術の提案の有無に関わらず) 公募要領において、複数の研究課題(小課題)で研究の組合せを行うような記載を検討。</p>
<p>三陸里海モデルの構築による沿岸資源の複合的管理手法の開発</p>		
<p>(1-4) 今後、こういった研究は重要になる。</p>	<p>關委員</p>	<p>御意見を踏まえ公募要領の記述について事務局で検討</p>
<p>(1-5) 藻場などの環境収容力の評価は重要。</p>	<p>大竹委員</p>	<p>御意見を踏まえ公募要領の記述について事務局で検討</p>
<p>三陸サケ回帰数増大のための複合的放流技術の開発</p>		
<p>(1-6) 被災地の加工業者はサケにとっても依存している。是非サケの研究については積極的に取り組んでほしい。要因はいろいろあると思うが、最近、サケが減少している。三陸にサケ研究の拠点を作るつもりで取り組んではどうか。</p>	<p>山内委員</p>	<p>御意見を踏まえ公募要領の記述について事務局で検討。 ただし、文科省事業など他事業との研究計画との重複の排除と、研究推進において文科省など他事業等との連携を図ることを義務付けるような記述とする。</p>
<p>全般</p>		
<p>(1-7) 研究開発の内容は地元の意見を十分取り入れてもらっている。</p>	<p>岩手県水産技術センター</p>	<p>地元の意見を尊重し、研究推進が図れるよう公募要領の記述について事務局で検討</p>
<p>(1-8) 漁海況予測についてはこれまで県単独でもやってきたが難しい。</p>	<p>岩手県水産技術センター</p>	<p>地元の復興の取組と連携するため、公募要領の記述について事務局で検討</p>
<p>(1-9) サケの研究が行われればその成果を取り入れたい。</p>	<p>岩手県水産技術センター</p>	<p>地元の復興の取組と連携するため、公募要領の記述について事務局で検討</p>
<p>(1-10) ホタテ養殖の高品質化に海況予測システムを使いたい。</p>	<p>岩手県水産技術センター</p>	<p>海況予測システムについて、公募要領の記述について事務局で検討</p>

<p>(1-11)</p> <p>岩手県ではあまり魚類の養殖が盛んでなかった。若い人たちを取り込んで新しい漁業形態を導入するには、このような可能性も探るべきで、そのような視点での検討も行ってはどうか。</p>	<p>山内委員</p>	<p>地元のニーズや復興の方向性等を勘案し、公募要領の記述について事務局で検討。</p>
<p>(1-12)</p> <p>事業を組み立てるにあたっては、研究成果の最終的な出口として、生産者につなげるという視点をしっかり持ってほしい。漁協とかをどう組みこんでいくかという視点。</p>	<p>大竹委員</p>	<p>研究計画の目標、推進体制等について必要な規定を公募要領中に記載することとし、公募要領の記述について事務局で検討。</p>

② 地域資源を活用した省エネ・省コスト型水産業の実現に向けた研究

御指摘		事務局対応方針
全般		
<p>(1-13)</p> <p>かなり加工分野が入っているが、公募の段階でチーム構成が見えるものを想定しているのか。研究期間中に技術を加工業者におろすのか、研究期間で技術を開発し、できるところから順次成果を還元するイメージか。</p>	<p>關委員</p>	<p>提案段階で研究グループの構成が見える形で御提案頂くことを想定するが、個別の現場ニーズに対応した開発等への対応を含め、公募要領の記述について事務局で検討。</p>
<p>(1-14)</p> <p>被災地の企業に技術を移転し、研究部門のような知的産業部門を持つ水産加工業者を増やせるかが重要。</p>	<p>戸谷委員</p>	<p>公募要領の記述について事務局で検討。</p>

<p>(1-15) 岩手県の復興計画にも水産業及び水産加工業との記述があるので、両方を含む研究を推進することでよい。</p>	<p>戸谷委員</p>	<p>水産業及び水産加工業を含む研究領域であることをわかり易く表現するため、研究領域の名称を変更。</p>
--	-------------	---

③ 自然エネルギーを利用した漁村のスマートコミュニティー化研究

御指摘		事務局対応方針
全般		
<p>(1-16) エネルギー利用研究には期待するが、この研究を取り上げるためには、数的に明確な目標が必要ではないか。可能ならばそれを示すべき。</p>	<p>関委員</p>	<p>公募要領の記述について事務局で検討</p>